



一般社団法人

## 日本糖尿病・妊娠学会 ニュースレター

The Japanese Society of Diabetes and Pregnancy News Letter

2023年 10月発行 Vol.25 No.2

第49号

## 第39回日本糖尿病・妊娠学会年次学術集会のご案内

テーマ：科学的エビデンスを現場に。現場から科学的エビデンスを。

会期：2023年 11月 17日(金)・18日(土)

会場：朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター（新潟市）

第39回日本糖尿病・妊娠学会  
年次学術集会長

曾根 博仁

新潟大学大学院医歯学総合研究科  
血液・内分泌・代謝内科学分野

この度は伝統ある本学会の第39回年次学術集会を、20年ぶりに新潟で開催させていただくことになり大変光栄に存じております。

現時点（7月末）における準備状況と予定されている内容の一部についてご報告ならびにご紹介申し上げます。

まず、今回のテーマ「科学的エビデンスを現場に。現場から科学的エビデンスを。」に基づき、とくに次世代を担う若手の皆様が、ご多忙な中でもぜひ現場診療を変えるエビデンスを確立して欲しいという願いを込めて、特別企画フォーラム「現場からエビデンスを～現場医療者への研究とその発表のすすめ」を開催いたします。またシンポジウムとしては、そのようなエビデンスの現場実装として重要なガイドラインに関する「糖代謝異常妊娠関連ガイドラインの共通化を目指して」、また最近議論が続くホットトピックである「糖代謝異常妊婦の体重増加量と栄養のマネージメント」、

現場のさまざまな工夫が学べる「職種横断的な糖代謝異常妊婦のケアと病診連携」の計3つを予定しております。さらに「こころの健康」「プレコンセプションケア」など、興味深く役に立つ教育講演5演題や、妊娠中におけるFGMの効果的使用に関するスポンサードセミナーも開催されます。ランチョンセミナーも、最新のEXPECT試験やエコチル調査のエビデンスのご紹介などを含む計4本が予定されています。そして海外特別講演としては、HAPO Studyのアジア人データなどを取りまとめられたRonald Cw Ma教授（The Chinese University of Hong Kong）にご来日いただき、久しぶりに対面で素晴らしいお話が聴ける運びとなりました。一方、投稿数が伸びずに心配されていた一般演題も、おかげさまで持ち直しつつあり、多くの皆様方のご協力を得て、本年度も例年同様、専門科や職種にかかわらずすべての皆さんに来て良かったと思っていただける、素晴らしい学術集会になることと信じております。

新潟はイメージ的には遠く思えますが、東京、大阪、福岡、札幌のいずれからでも2時間足らずの距離で、世界遺産登録が有力視される佐渡島も近く（空いている今がチャンス?）、ご存知のように食と酒にも恵まれたところです。観光なども兼ね、ぜひ当地まで足をお運びいただければ幸いです。皆様を新潟でお迎えできることを一同大変楽しみにしております。

新潟はイメージ的には遠く思えますが、東京、大阪、福岡、札幌のいずれからでも2時間足らずの距離で、世界遺産登録が有力視される佐渡島も近く（空いている今がチャンス?）、ご存知のように食と酒にも恵まれたところです。観光なども兼ね、ぜひ当地まで足をお運びいただければ幸いです。皆様を新潟でお迎えできることを一同大変楽しみにしております。

第39回  
日本糖尿病・妊娠学会  
年次学術集会

テーマ  
科学的エビデンスを現場に。現場から科学的エビデンスを。

会期 2023.11.17 Fri ~ 18 Sat

会長 曾根 博仁  
新潟大学大学院医歯学総合研究科  
血液・内分泌・代謝内科学分野

会場 朱鷺メッセ新潟  
コンベンションセンター  
〒950-0070 新潟市中央区東2-1-1  
TEL: 025-246-8400

事務局長 山田 直穂（新潟大学大学院医歯学総合研究科 血液・内分泌・代謝内科）  
〒950-0070 新潟市中央区東2-1-1  
TEL: 025-246-8400 FAX: 025-246-8401 E-mail: jsdp@nagasaki.ac.jp

Webサイト  
https://www.jsdp.jp/annual-meeting/2023/

記

会期 2023年 11月 17日(金)～18日(土)

会場 「新潟コンベンションセンター 朱鷺(とき)メッセ」

（新幹線新潟駅からも新潟空港からも  
アクセスしやすい新潟市中心部です）

● 発行人 理事長 杉山 隆

● 発行 一般社団法人 日本糖尿病・妊娠学会 www.dm-net.co.jp/jsdp/ 〒105-0003 東京都港区西新橋2-8-11 第7東洋海事ビル(株)創新社内  
TEL.03(5521)2881 FAX.03(5521)2883

編集制作：レタープレス(株) ロゴマークデザイン：杉山光章

# 第40回日本糖尿病・妊娠学会年次学術集会のご案内

テーマ：小児・思春期から始める母児の healthy life cycle

会期：2024年11月22日(金)・23日(土)

会場：ソニックシティ（さいたま市）



第40回日本糖尿病・妊娠学会  
年次学術集会長

**菊池 透**

埼玉医科大学小児科

第40回日本糖尿病・妊娠学会年次学術集会は埼玉医科大学小児科が担当させていただきます。会期は2024年11月22日(金)・23日(土)で、会場は、さいたま市大宮駅西口から徒歩5分のソニックシティです。小児科が担当するのは、第35回年次学術集会（会長杉原茂孝教授）以来5年ぶり、埼玉医科大学小児科が担当するのは、第26回年次学術集会（会長雨宮伸教授）以来14年ぶりとなります。記念すべき第40回年次学術集會会長を拝命し、身の引き締まる思いでございます。

テーマは、「小児・思春期から始める母児の healthy life cycle」とさせていただきます。

小児・思春期の肥満、糖尿病は、妊娠中の糖代謝異常を惹起し、分娩後の母体糖尿病や児の肥満、糖代謝異常の要因となります。しかし、小児・思春期から食育や肥満予防対策をすることで、妊娠中の糖代謝異常を予防し、さらに、母体とその児の肥満、糖代謝異常を予防することができると考えられています。また、妊娠中の

適切な糖尿病管理も児の肥満、糖尿病代謝異常の予防に繋がります。このような healthy life cycle を実現させることが、本学会の活動成果の社会実装と考え、本年次学術集会のテーマとさせていただきました。

本年次学術集会では、産婦人科、糖尿病内科、新生児科、小児科などの医師、助産師、看護師、管理栄養士など複数の職種、診療科の方々が参加し、熱い議論が交わされます。しかし、残念ながら、新生児科および小児科医師の学会会員、参加者が減少しております。本年次学術集会を契機に、新生児科、小児科医師の他、すべての職種、診療科の方々の学会会員、参加者が増加するような魅力あるプログラムにすべく、産婦人科、糖尿病内科の先生方のご指導をいただきながら、鋭意準備してまいります。また、私が理事長を務めています日本小児・思春期糖尿病学会とも連携し、相互に会員数が増加するような企画を検討しております。

会場のソニックシティは、都心部からのアクセスもよく、最近改修工事が終了したばかりです。ただし、大宮駅周辺には、宿泊施設が少ないので、宿泊を予定されている方は、お早目に宿泊先の確保をお勧めいたします。

年次学術集会の盛会のためには、皆様からの多くの演題をいただくことが一番です。会員の皆様のご協力をお願い申し上げます。たくさんの皆様とソニックシティでお会いできることを心待ちにしております。





## 内山 温

東海大学医学部総合診療学系  
小児科学

### Hyperglycemia and Adverse Pregnancy Outcome Follow-up Study (HAPO FUS)

#### 一児の思春期前期の臨床像と課題

近年、Hyperglycemia and Adverse Pregnancy Outcome (HAPO) study に登録された症例について母児の経過を長期間追った HAPO Follow-up Study (HAPO FUS) の研究成果が複数報告されるようになってきた。本稿では、HAPO FUS の中で、母親や新生児の臨床所見と、児が 10～14 歳（思春期前期）になった時の臨床所見との関連性を検討した報告について概説する。

Lowe らは、妊娠糖尿病の母体より出生した児は、思春期前期の時点で耐糖能異常をきたすリスクが有意に高いことを明らかにした<sup>1)</sup>。Scholtens らは、妊娠 24～32 週時の 75g OGTT に着目し、この時期の母体の血糖値は、児が思春期前期になった時の血糖値 Z のスコアおよび HbA1c 値と正の相関関係があることを明らかにした<sup>2)</sup>。Bianco らは、HAPO

study に登録された児の出生体重、出生時の皮下脂肪および臍帯血の C-ペプチド値に着目して、思春期前期のインスリン感受性および血糖値との関連性を検討し、胎児期の適切な栄養状態は思春期前期の子供たちの糖代謝に良い影響を及ぼすが、過剰な栄養状態は、思春期前期の子供たちの糖代謝に悪影響を及ぼす可能性があることを明らかにした<sup>3)</sup>。

HAPO FUS によって、糖代謝異常を合併した母体より出生した児は、胎児期の環境や出生時の状態によっては、思春期前期の時点ですでに糖代謝に悪影響が及んでいる可能性が高いことが明らかになった。これらの児は、新生児期に低血糖などを合併して入院する機会があれば、退院後のフォローアップ外来で早期に異常に気づかれる可能性があるが、入院歴がない児の場合には、発見が遅れる可能性が高い。入院歴がない児も含めて、これらの異常の早期発見や予防に努めるためには、小児科医だけではなく地域の保健師など多職種による関わりが必要ではないかと考えている。

#### 参考文献

- 1) Lowe WL Jr, et al.: Hyperglycemia and Adverse Pregnancy Outcome Follow-up Study (HAPO FUS): Maternal gestational diabetes mellitus and childhood glucose metabolism. *Diabetes Care*, 42: 372-380, 2019
- 2) Scholtens DM, et al.: Hyperglycemia and Adverse Pregnancy Outcome Follow-up Study (HAPO FUS): Maternal glycemia and childhood glucose metabolism. *Diabetes Care*, 42: 381-392, 2019
- 3) Bianco ME, et al.: Hyperglycemia and Adverse Pregnancy Outcome Follow-Up Study: newborn anthropometrics and childhood glucose metabolism. *Diabetologia*, 64: 561-570, 2021

### 国内関連学会開催日程

#### 第58回糖尿病学の進歩

テーマ：糖尿病学の真髄：心・技・知・考

2024年2月16日(金)・17日(土)

世話人：池上 博司（近畿大学医学部 内分泌・代謝・糖尿病内科）

会場：国立京都国際会館

公式ホームページ：<https://site.convention.co.jp/58shimpo/>

#### 第37回日本糖尿病・肥満動物学会年次学術集会

2024年3月15日(金)・16日(土)

会長：水上 浩哉（弘前大学大学院医学研究科分子病態病理学講座）

会場：弘前大学創立50周年記念会館

公式ホームページ：<https://jsedo.jp/jsedo37/>

#### 第67回日本糖尿病学会年次学術集会

テーマ：「糖尿病」のない世界を目指して—糖尿病学の挑戦—

2024年5月17日(金)～19日(日)

会長：植木 浩二郎（国立国際医療研究センター研究所 糖尿病研究センター）

会場：東京国際フォーラム、JPタワーホール&カンファレンス、東京商工会議所ホール&カンファレンス

公式ホームページ：<https://site2.convention.co.jp/67jds/index.html>

#### 第60回日本周産期・新生児医学会学術集会

テーマ：シン・周産期 新生児医学

2024年7月13日(土)～15日(月・祝)

会長：和田 和子（大阪母子医療センター 新生児科）

会場：大阪国際会議場

公式ホームページ：<https://site.convention.co.jp/60jspnm/>



## トピックス



## 田中 佳代

久留米大学医学部看護学科  
母性看護学  
久留米大学大学院医学研究科  
助産学分野

糖尿病と妊娠に関わるケアの  
さらなる向上を目指して

看護界では、変化する医療・社会情勢に対応すべく看護基礎教育の改正や専門職者としてのスキルアップに取り組んでいる。看護基礎教育では、大学化がさらにすすみ、令和5年度の教育課程数は283大学、300課程に及ぶ。大学院での助産師養成は令和4年には50校で、全国の助産師学校の23%を占める<sup>1)</sup>。

このようななかで、助産師への糖尿病と妊娠に関する教育は、2020年に提示されたコア・カリキュラムの中で、GDMについて理解し、医療介入を要する妊婦への必要な助産ケアについて学ぶよう、「GDMの病態、検査、治療」「GDMが母子に与える影響」「GDMの重症度に応じた観察と治療」を説明できる、「GDM妊婦への助産ケア」が実施できるとして、「GDMの妊婦への助産ケア」が提示された<sup>2)</sup>。さらに、2015年から運用を開始したCLoCMiP<sup>®</sup>レベルⅢによる助産師実践能力認証制度における必須研修の中で、糖尿病と妊娠については、「GDM、妊娠中の明らかな糖尿病、並びに糖尿病合併妊婦の妊娠期・分娩期の管理と支援」「GDM既往妊婦の産後のフォローアップ」「GDM既往妊婦から出生した新生児のケア」を理解できることを目的とした研修が必須とされている<sup>3)</sup>。このようにGDMが主になってはいるが、助産師が糖尿病と妊娠に関わる基礎知識を得られる教育体制が整ってきている状況にある。

看護の分野では2019年度に認定看護師制度が改正され、特定行為研修を受けることで特定認定看護師（B課程認定看護師）資格が得られるようになった。このB課程認定看護分野19分野に「糖尿病看護」が含まれ、教育課程に「栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連」「血糖コントロールに係る薬剤投与関連」の特定行為区分が組み込まれており、インスリンの投与量の調整が実施できる<sup>4)</sup>。

このように知識と実践力をもつ看護師と助産師の連携によって、糖尿病と妊娠に関わるケアのさらなる向上が期待できる。そして、医師、栄養士、臨床検査技師、保健師等の多職種と連携し、糖代謝異常をもつすべての女性のリプロダクティブ・ヘルスが向上できる体制の構築が求められる。すでに多分野・多職種がともに、糖尿病と妊娠の研究・医療をリードしている本学会の果たす役割は大きいと感じている。

- \*特定行為<sup>5)</sup>：診療の補助であって、看護師が手順書により行う場合には、実践的な理解力、思考力及び判断力並びに高度かつ専門的な知識及び技能が特に必要とされるもの。
- \*特定行為 — インスリンの投与量の調整<sup>5)</sup>：医師の指示の下、手順書（スライディングスケールは除く）により、身体所見（口渇、冷汗の程度、食事摂取量等）及び検査結果（血糖値等）等が医師から指示された病状の範囲にあることを確認し、インスリン投与量の調整を行うことができる。

## 引用文献

- 1) 文部科学省高等教育局医学教育課：2023年度日本看護系大学協議会 定時社員総会資料。
- 2) 公益社団法人全国助産師教育協議会：望ましい助産師教育におけるコア・カリキュラム 2020年
- 3) 一般社団法人日本助産評価機構(2022年以降対応版) 必須研修内容一覧 (<http://www.josan-hyoka.org/wp02/wp-content/uploads/2022program.pdf>)
- 4) 認定看護師教育基準カリキュラムの概要(特定行為研修を組み込んでいる教育課程：B課程教育機関) ([https://www.nurse.or.jp/nursing/wpcontent/uploads/2019/05/10\\_tounyoubyoukango\\_B\\_gaiyou\\_20190513.pdf](https://www.nurse.or.jp/nursing/wpcontent/uploads/2019/05/10_tounyoubyoukango_B_gaiyou_20190513.pdf))
- 5) 看護師の特定行為研修制度ポータルサイト (<https://www.nurse.or.jp/nursing/education/tokuteikenshu/portal/about/>)

## 海外関連学会開催日程

## IDF Virtual Congress 2023

2023年12月4日(月)～7日(木)

会 場：オンライン

公式ホームページ：<https://idf2023.org/>

## 2024 SMFM Annual Pregnancy Meeting

2024年2月10日(土)～14日(水)

会 場：アメリカ メリーランド

## 17th International Conference on Advanced Technologies &amp; Treatment for Diabetes

2024年3月6日(水)～9日(土)

会 場：イタリア フィレンツェ

公式ホームページ：<https://attd.kenes.com/>

## 2024 Pediatric Endocrine Society (PES) Annual Meeting

2024年5月2日(木)～5日(日)

会 場：アメリカ シカゴ

## American Diabetes Association (ADA) 84th Scientific Sessions

2024年6月21日(金)～24日(月)

会 場：アメリカ オーランド